



2023年度  
国際キャリア教育プログラム

# 国際キャリア教育 事前学習資料集

主催：大学コンソーシアムとちぎ 宇都宮大学  
後援：(公社)栃木県経済同友会 (公財)栃木県国際交流協会、  
NPO 法人宇都宮市国際交流協会 いっくら国際文化交流会 JICA 筑波センター  
協賛：(公財)あしぎん国際交流財団  
特別協力：宇都宮市創造都市研究センター

## 目次

(敬称略)

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| 目標とルール                            | 1  |
| はじめに                              | 2  |
| 実施要綱                              | 4  |
| プログラム                             | 5  |
| 倫理綱領・個別ガイドライン・問題事例                | 6  |
| 「全体講義」との講師の紹介（重田 康博）              |    |
| 混迷の時代の国際キャリアを考えるー真のグローバル人材に必要な条件ー | 8  |
| 分科会 A と講師の紹介（郡司 成江）               |    |
| 視点を変えて誰でもチャレンジできる国際ビジネス           | 11 |
| 分科会 B と講師の紹介（宮原 麻季）               |    |
| 日本と海外をつなぐ働き方を考える                  | 14 |
| 分科会 C と講師の紹介（毛塚 幹人）               |    |
| 国際社会における都市経営                      | 16 |
| 分科会 D と講師の紹介（申 惠媛）                |    |
| 「多文化」が「共生」する社会とは？                 | 18 |
| 分科会 E と講師の紹介（リーペレス・ファビオ）          |    |
| 「違い」を越えた友だち                       | 20 |
| 分科会 F と講師の紹介（浅水 伸介）               |    |
| 異文化理解コミュニケーションで必要なこととは？           | 22 |

## ●目標とルール

国際キャリア教育セミナーの参加者はルールを守り、目標の達成に向けて励んでください。

### 目標

- 「働く」とはということなのかについて考える。
- 自分と地域社会や世界とのつながりについて考える。
- 主体的に関わりたい分野を見つけ、今後の学びに向けた“きっかけ”を得る。

### ルール

- どんな意見も臆せず、積極的に発言しよう。
- 一人ひとりが参加者の自覚をもとう。
- 異なる意見を尊重するとともに自分の意見をもとう。
- 自分独自の意見を述べよう。
- 多様な発想を生み出す雰囲気をつくろう。
- 時間厳守で行動しよう！
- 安全、健康に注意をしよう。

## ●はじめに

国際キャリア教育プログラムに参加される皆様

国際キャリア教育運営委員会 委員長  
国際学部国際学科 教授  
吉田 一彦



宇都宮大学、大学コンソーシアムとちぎ、そして全国の大学生、社会人の皆さん、国際交流に関心がある高校生の皆さんも、国際キャリアについて考えたことがありますか。

大学時代に、就職活動に入る前に、国際キャリアのプログラムに参加してみたい、国際的な問題に対応する職場や海外で国際インターンをしてみたい、あるいは今、政府、企業、大学で叫ばれている、「グローバル人材」の育成のためのプログラムに参加してみたいと思う方がいるかもしれません。

そのように考えている皆さんのニーズに応えるのが、グローバルマインドを養う「国際キャリア教育プログラム」です。本プログラムは、宇都宮大学国際学部や栃木県の大学が中心になって2004年から毎年実施され、参加者数は過去19年間合計2058名（宇都宮大学1279名、外部参加者779名）となっています。2020年より、新型コロナウイルス感染症流行への対応のためのオンライン化によって、海外からの参加も可能になり、英語でセミナー全体を行う「International Career Seminar」へは、本学交流協定校であるペラデニヤ大学(スリランカ)およびサラワク大学(マレーシア)から多数学生の参加があり、国際交流実体験の場としての学修効果を生んでいます。

このプログラムの科目は、学生が生きることや働くことの意味について考えるという点で共通の「国際キャリア教育」(日本語によるセミナー)と、「International Career Seminar」(英語によるセミナー)、そして、国内や海外の企業、公的機関、NGO・NPOで専門業務を経験する「国際キャリア実習」の3科目、6単位で構成されています。いずれも夏季と春季の休業期間に行われます。2つのセミナーはどちらも3日間の集中講義形式で、共通テーマを「グローバル化時代の地域とキャリア」とし、「地域からのグローバル化(Globalization)」、「地域のグローバル化(Glocalization)」の2つの柱を立て、国際ビジネス、国際協力・国際貢献、多文化共生と日本、異文化理解・コミュニケーションの4つのテーマで分科会を構成します。各分科会では、その道のプロの専門家や講師を揃えています。一方、総時間数80時間で行われる「国際キャリア実習」は、国内・海外の魅力的で個性的な研修先を用意しています。3科目すべての履修を勧めますが、1つか2つを選択して受講することも可能です。

「国際キャリア教育プログラム」は、毎年宇都宮市や栃木県内だけでなく、全国から優秀な大学生、社会人が多数参加します。皆さんもこのプログラムに参加して、国際キャリアについて一緒に学び、国際社会や地域社会への「キャリアパス」の可能性を探っていきましょう。

最後に、本プログラムは、栃木県からの支援を受けて、大学コンソーシアムとちぎとの共同事業として企画しましたが、その実施に際しましては、(公社)栃木県経済同友会、(公財)栃木県国際交流協会、NPO 法人宇都宮市国際交流協会、いっくら国際文化交流会、そして、JICA筑波センターからご後援をいただきました。また、(公財)あしぎん国際交流財団からはご協賛、宇都宮市創造都市研究センターからは特別協力をいただきました。ご関係の皆様からの多大なご理解とご支援に対し、主催者を代表して、厚くお礼申し上げます。

## ●実施要綱

- 1) 科 目 名 : 国際キャリア教育 2023
- 2) テ ー マ : グローバル時代のキャリア形成を考える
- 3) 日 程 : 2023年9月16日(土)～18日(月祝)  
事前指導 : 2023年7月25日(火) 18:00-19:30
- 4) 実施形態 : Zoomによるオンライン授業
- 5) プログラム : 4頁を参照
- 6) 参加定員 : 50名
- 7) 参加費 : 無料 ※ネットワーク通信料等は自己負担となります
- 8) 問 合 せ : 宇都宮大学 峰キャンパス事務部国際学部係 (5号館C棟1階)  
担当 : 佐藤  
<所在地> 〒321-8505 宇都宮市峰町 350  
<問合先> TEL: 028-649-5172 (直通) FAX: 028-649-5171  
E-mail: kokuca@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

## ●プログラム（敬称略）

### 事前指導（7月25日 火曜日）

| 時 間         | 内 容        |
|-------------|------------|
| 18:00～18:45 | 受付、全体会事前指導 |
| 18:45～19:30 | 分科会事前指導    |

### セミナー1日目（9月16日 土曜日）

| 時 間         | 内 容   |
|-------------|---|
| 09:00～09:30 | 受付  |
| 09:30～09:50 | 開講式・オリエンテーション   |
| 09:50～12:00 | 全体会（全体講義・ブレイクアウトセッション）  |
| 12:00～13:00 | 昼食  |
| 13:00～15:00 | パネルトーク「グローバル時代におけるキャリア形成について」   |
| 15:10～15:30 | 趣旨説明（分科会および全体発表のプレゼン方法の説明など）  |
| 15:50～17:50 | 分科会 1<br>-----<br>分科会 A「国際ビジネス」 講師：郡司 成江<br>-----<br>分科会 B「国際協力・国際貢献」 講師：宮原 麻季<br>-----<br>分科会 C「国際化とガバナンス」 講師：毛塚 幹人<br>-----<br>分科会 D「多文化共生と日本」 講師：申 惠媛<br>-----<br>分科会 E「多文化共生と日本」 講師：リーペレス・ファビオ<br>-----<br>分科会 F「異文化理解コミュニケーション」 講師：浅水 伸介 |

### セミナー2日目（9月17日 日曜日）

| 時 間         | 内 容                  |
|-------------|----------------------|
| 08:30～12:00 | 分科会 2                |
| 12:00～13:00 | 昼食                   |
| 13:00～15:30 | 分科会 3                |
| 15:30～16:30 | 分科会 4（分科会まとめ・中間発表準備） |
| 16:30～17:30 | 中間発表                 |
| 17:30～18:30 | 分科会 5（発表準備）          |

### セミナー3日目（9月18日 月曜日）

| 時 間         | 内 容   |
|-------------|-------|
| 08:30～10:00 | 発表準備  |
| 10:00～12:20 | 全体発表  |
| 12:20～13:30 | 昼食    |
| 13:30～14:30 | ふりかえり |
| 14:30～15:00 | 閉講式   |

## 1. 国際キャリア教育プログラム倫理綱領

本プログラムの関係者は、以下の原則に従って行動します。

- ① その活動において、常に基本的人権と個人の尊厳を尊重します。
- ② 国際学部並びに本プログラムの教育目標の実現に資する教育を行うために、改善と向上に努め、学生の自発的な学習を支援します。
- ③ 学修目標を明確に示し、学生への対応や成績評価などの学生指導全般において、公正を確保します。
- ④ 個人情報の保護に最大限の注意を払います。

## 2. 倫理綱領に基づく個別ガイドライン

以上の倫理綱領に基づき、特に以下の点について配慮をお願いいたします。

- ① 人種やジェンダー、言語、宗教、国籍、社会的背景、年齢等が異なる多様な参加者で構成されているプログラムであることに留意しつつ行動します。
- ② 食事や信仰生活を含む生活様式を尊重し、可能な限り対応します。
- ③ ハラスメントに該当する行為は決して行いません。
- ④ ハラスメントに関する情報を得たり相談を受けた場合には、放置せずに対応します。
- ⑤ 参加者による主体的な学びを尊重し、その提案や意見を積極的に取り入れます。

## 3. 具体的な過去の問題事例

(事例にある「参加者」とは、講師、スタッフ、学生等の参加者全員を意味します。)

### 事例 1) 国籍による差別発言

ある参加者から「A 国人は物を盗む」といった国籍による差別的な発言があり、その国籍を有する他の参加者の尊厳が傷つけられる事態が発生した。

### 事例 2) ジェンダーや多様性への配慮を欠いた発言

ある参加者が、男性的な服装をしている女性の参加者に対して、「いい歳なのだから、もう少し女性らしくしないと」とジェンダーに関する配慮に欠ける発言があった。その結果、トランスジェンダー<sup>1</sup>であるその女性参加者の尊厳が傷つけられる事態が発生した。

### 事例 3) ハラスメントに該当する行為や発言

ある男性参加者が懇親会で他の参加者に酒を飲むようにしつこく勧め、男女問わず「付き合っている人はいるのか」等と質問をして無理に答えを聞こうとしたり、女性の参加者に対して酔っ払いながら「肩をもんでくれ」と頼んだりした。

### 事例 4) 主体性や協働を認めない教育

分科会において講師が一方向的に講義を続けたり、一部の参加者のみが発言を独占する事態が発生した。その結果、学生たちが主体的に協力しながら行う議論や全体発表準備のための作業時間を、十分確保することができなかった。

<sup>1</sup> トランスジェンダーとは、出生時に決定された性別に性的違和（性同一性障害）があり、性別を変えて生活していたり、性別を変えたいと思っている人（性と人権ネットワーク作成パネル、2014年より）。

事例 5) 許可を得ないで行う個人情報や写真の使用

ある参加者が、他の参加者の連絡先などの個人情報や撮影した写真を、相手の許可なく SNS などを使って公開し、別の目的で利用した。

## 混迷の時代の国際キャリアを考える

### —真のグローバル人材に必要な条件—

#### ☆講師プロフィール

氏名：重田 康博（しげた やすひろ）

所属：宇都宮大学 国際学部 客員教授

前国際キャリア教育運営委員会委員長



#### 略歴：

北九州市立大学大学院社会システム研究科博士後期課程修了（博士・

学術）。国際協力推進協会（APIC）主任研究員、クリスチャン・エイド客員研究員（イギリス・ロンドン）、NGO 活動推進センター（現、国際協力 NGO センター、JANIC）主幹等を経て元宇都宮大学国際学部教授（2007-2022）、専門は国際開発研究、国際 NGO 研究。JANIC 政策アドバイザー、アジア・アフリカ研究所理事、JVC とちぎネットワーク代表。福島原発震災に関する研究フォーラム・アドバイザー。著書に『NGO の発展の軌跡』（明石書店 2005）、『国際 NGO が世界を変える』（共著、東信堂 2006）、『開発教育—持続可能な世界のために』（共著、学文社 2008）、『激動するグローバル市民社会—慈善から公正への発展と展開』（明石書店 2017）、『グローバル時代の「開発」を考える—世界と関わり、共に生きるための 7 つのヒント』（共著、2017 明石書店）、『SDG s 時代のグローバル開発協力論』（編著、明石書店 2019）、『日本の国際協力 アジア編—経済成長から「持続可能な社会」の実現へ』（編著、ミネルヴァ書房 2021）、他。

#### 全体講義の内容

今世界は混迷の時代と言われています。その混迷の時代を生きるための真のグローバル人材とは何か、その必要な条件を具体的な事例を示しながら紹介し、国際キャリア形成について考えます。

#### ★最初に、混迷の時代とはどのような時代なのかを説明します。

21 世紀は 9.11 米国同時多発テロに始まり、今日まで世界のいたるところで、未曾有の危機が発生しています。米国などの主導による経済のグローバリゼーションの進行により、かつての先進国と途上国の間の格差だけではなく、同じ国の中の富者と貧者、都市生活者と農今世界各地で、国家の分断、孤立、難民・移民の排除、自国第一主義とポピュリズム、コロナ感染の拡大、ウクライナ戦争などの波が押し寄せ、第 2 次世界大戦後世界の多くの国が目指してきた、「国際協調主義」と「共生・包摂・寛容な社会」の危機が叫ばれています。

このような「国際協調主義」と「共生・包摂・寛容な社会」の崩壊の危機の中で、NGO・CSO（市民社会組織）も含めたグローバル市民社会による多元主義の再構築と公共圏の形成が求められています。

この危機をどのように乗り越えるのか、どのように「国際協調主義」と「共生できる寛容な社会」を取り戻せるのでしょうか。混迷する時代を生きるためにグローバル人材をどのように育成すればいいのでしょうか。

**★次に、「グローバル人材」とは、何かを説明します。**

では、「グローバル人材」にはどのような能力が求められるのでしょうか。2011年6月文部省「グローバル人材育成推進会議 中間まとめ」では、そのポイントとして、「語学力向上（英語）」と「内向き志向」の克服で、その取組みは「英語」と「海外体験」となっています。しかし、この「英語」と「海外体験」だけで今の混迷の時代を生きるグローバル人材を育てられるのでしょうか？

☆宇都宮大学グローバル構想—「地域からのグローバル化」「地域のグローバル化」に貢献

☆国際学部国際学科において養成する人材像（改組に伴い2017年4月から実施）

⇒21世紀型グローバル人材（グローカル人材）の育成

☆国際学部の卒業生は、その多くがグローバル企業、マスコミ、NGOなどで働き、国内外で活躍しています。

**★最後に、地球公益を目指す「グローバル（地球）市民」について説明します。**

「グローバル（地球）市民」として生きるためには、「グローバル（地球）市民社会」の育成が必要だと思います。つまり、「国際協調」を超えた「地球公益」を求めていく人間や社会を育て、「非寛容社会」から「寛容社会」への価値観の転換が求められています。

☆国連による「持続可能な開発目標（SDGs、Sustainable Development Goals）」は、2015年9月の国連総会で採択され、17の目標と169のターゲットからなり、2016年から2030年までの15年間世界の国々はこの開発目標の達成に向けて取り組み、その達成のために、国際機関、国家、企業、NGO・CSOが問題の解決に向けて取り組むことが求められています。

☆「地球公益（地球市民のための公益、Global Public Interests）」とは、公正な地球社会を求める世界の人々のための非営利活動です。その根底にあるのは公正、寛容、包摂、共生、多様性、多文化です。「地球公益」を求めることは、グローバルマインドを養い、グローバル人材を育成することだと思います。

**参考文献**

- 渥美育子(2013)『「世界で戦える人材」の条件』PHP ビジネス新書
- グラットン、リンダ/アンドリュー・スコット/訳 池村千秋(2016)『LIFE SHIFT—100年時代の人生戦略』東洋経済新報社
- 駒井洋監修/五十嵐泰正・明石純一編著『「グローバル人材」をめぐる政策と現実』明石書店、2015年
- 加藤/丸木元『グローバル人材とは誰か 若者の海外経験の意味を問う』青弓社、2016年

- 重田康博『激動するグローバル市民社会—慈善から公正へ発展と展開』  
明石書店、2017年
- 友松篤信『グローバルキャリア教育—グローバル人材の育成』ナカニシヤ出版 2012年
- 西あい/湯本浩之編著、木下理仁/近藤牧子/重田康博/田中治彦著 開発教育協会内「グローバル化と開発問題」研究会(2017) 『グローバル時代の「開発」を考える—世界と関わり、共に生きるための⑦つのヒント』

## 視点を変えて誰でもチャレンジできる国際ビジネス

### ☆講師プロフィール

氏名：郡司 成江（ぐんじ まさえ）

所属：ビューティーアトリエグループ総美有限会社

代表取締役社長

略歴：

大学卒業し英国留学後、美容師から美容室経営へ。「三面美養（外面・内面・精神面）」をテーマにベトナム進出や多業種を展開。現在 9 業種 26 店舗を運営。これまでに独自の人財育成を 1000 人以上行い、第 11 回「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」審査委員会特別賞受賞。経営者向けの講演への登壇や、著書を出版。



### 1. 仕事の概要

宇都宮と海外店舗ホーチミン、ダナン 9 業種 23 店舗（三面美容口外面：理美容室、マツエクサロン、エステサロン、頭皮専門店、内面：米粉のバームクーヘン専門店、カフェ、精神面：セミナー事業）の経営と人財育成を行っております。

ビジネス成功の、秘訣の一つは『人』だと思い、人財育成に力を入れています。理美容の地位向上と働く環境の改善、そして生産性を高め一生働ける仕事にするために、髪を切るだけの仕事ではいけないと考え、新たな思考でライフスタイルビューティコンサルタントを構築している最中です。

100 年時代のキャリアパス、日本の素晴らしい理美容技術とおもてなしのサービス精神を世界に広める為に、海外ビジネスを取り入れております。

### 2. キャリアパス

『学生時代』

子供の頃の夢は、『専業主婦』でした。共稼ぎの両親の元育った私は、帰って来たら母が家にいて、手作りのお菓子がある家庭環境に憧れていました。しかし、思春期を迎えるにあたり「頑張る事で自分を認めて欲しい」「自分の得意なモノを身に付けたい」と考えました。

大学はまだまだそれが見えずに、目的もあまり明確ではなく、ただリーダーになりたい、リーダーになるだろうという思いで経営学部に入學。大学の授業を受ける中で違和感を覚え、やりたいことは、人やモデルさんを綺麗にするヘアメイク、美容師だと気づき、大学を中退しようとなりました。しかし、「始めた事を途中で投げ出すな！」「無責任な事はするな！」と両親から助言され、大学と夜間のヘアメイク専門学校という二足の草鞋を履きました。

『海外留学』

その後、大学卒業とともに就職先に迷い、実践的なヘアの技術を学ぶためにイギリス、ヴィダルサス

ーンに留学。その後現地のヘアサロンで就職し、経験を積み、日本のビューティアトリエに入社しました。

#### 『社会人』

技術者としてお客様に日々向き合い、自分の経験を活かし若手スタッフへの技術指導や、憧れだったパリコレクション、NYコレクションなど、世界のファッションショーのヘアメイクを約10年間担当。しかし、個人の夢は叶うが自分の完璧主義とエゴにより、スタッフ、仲間は育たず。人は辞め、売り上げは伸びず人財育成には失敗の日々でした。

#### 『転換期』

結婚、出産をする事で、「自分一人では何も出来ない。仲間は大切だ」と気づき、人を育てる事に力を入れました。その結果、働き方は一つじゃない、人を生かし輝かせる経営「人を大切にする経営」を目指すようになりました。その結果2011年「日本でいちばん大切にしたい会社大賞 審査委員会特別賞」を頂きました。

#### 『現在』

業界の地位向上、未来100年時代に対応できる働き方のために、髪を切るだけではない「三面美容」をお伝えし、お客様に寄り添うライフスタイルビューティコンサルタントの職を作り上げています。10年前から日本の技術とおもてなしを栃木から世界に広げるために、ベトナム海外店を展開中。そして、考え方を未来からの逆算思考にする事と、習慣をつける事で未来は劇的に変わると自分自身が体験した事をきっかけに、セミナー講師として『自分らしい未来デザインの作り方』『これからの人財育成』『理想のメンバーを育む魔法の書の作り方』などの講座を運営。人財育成コンサルタントの仕事を行っています。

### 3. 分科会の内容

100年時代、働き方改革、DX化などのスピードが速い時代が訪れ、何が正しいか何が求められるかを読んでいくことは、大変難しい時代になっています。

これからのビジネスや国際ビジネスを考える上で大切な事は、何のために何をするか？という“WHY”。なぜそのビジネスをやるのか？やりたいのか？目の前の利益や現状だけでなく、未来から考えてくる逆算思考で、自分の未来を計画してみることがビジネスの第一歩。

答えは、必ずあなたの中にある。その答えをしっかりと言語化してみることから始めていきます。

その後、現状把握をして、可能なビジネスのプランを立ててみましょう。

### 4. 事前に調べてほしいキーワード

- 100年時代
- これからのニーズ
- 逆算思考
- やり方と在り方

## 5. 参考資料等

- 『L I F E S H I F T (ライフ・シフト) —100年時代の人生戦略』  
アンドリュー・スコット、リンダ・グラットン著、池村千秋訳、東洋経済新報社、2016年
- 『賢者の書』  
多喜川泰著、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2009年

## 6. 事前予習用リーディング課題

特別ありませんが、自分の未来や夢について考えておいてください。

## 日本と海外をつなぐ働き方を考える

### ☆講師プロフィール

氏名：宮原 麻季（みやはら まき）

所属：認定 NPO 法人シャプラニール＝市民による海外協力の会  
事業推進グループ チーフ

略歴：

慶応義塾大学法学研究科修了。企業勤務の後、JICA 海外協力隊にてネパールに派遣。帰国後入職し、ネパール事務所に 4 年間駐在、帰国後フェアトレード担当、海外活動グループを担当、児童労働削減、防災事業等の統括をする傍ら、在住外国人事業の立ち上げに関わる。プライベートでネパール人留学生支援の NPO 法人の立ち上げ、行政書士資格を取得。



### 1. 仕事の概要

シャプラニール＝市民による海外協力の会という名前の NGO に勤務して 11 年になります。今まで大きく分けて 3 つの業務に従事してきました。

ネパール事務所長

2012 年から 2016 年までネパール事務所で、児童労働削減事業、洪水防災事業及び 2015 年ネパール大地震の緊急救援、復興事業に関わりました。事業地に足を運び、住民の生活の変化や行政への対応など現場の最前線を見せていただく機会に恵まれました。

フェアトレード部門

2016 年～2020 年まで「お買い物で国際協力」をキャッチフレーズにしているフェアトレード部門（当会ではクラフトリンク部門）で、商品開発、のちに全体統括の役割につきました。製品を通じて日本の人びとに現地の社会課題をお伝えするという、今までとは異なったアプローチでの国際協力に関わり、深い学びを得ました。

事業推進部門

2020 年～現職。バングラデシュ、ネパールの事業統括及び多文化共生事業の立ち上げに関わっています。多文化共生事業の立ち上げにより海外の現場に行き事業をするということから、現地の人々が日本の社会の中に暮らしているという視点が大きく異なるアプローチの中で、国際協力の現場がより身近になってきていることを実感しています。

### 2. キャリアパス

埼玉県出身。大学院では現代中国政治を専攻し政治と市民運動の研究をし、副専攻では多文化共生を勉

強しました。修士課程修了後、一般企業に就職しましたが、国際的な仕事へのあこがれから JICA 海外協力隊隊員としてネパールで 2 年間のボランティアに従事したことか人生の道筋が定まりました。実際に現地の言葉を話し、現地の人びととの交流を通じて、現場に近い国際協力を仕事にしたいと強く思うようになり現在の勤務先である NGO に就職しました。

現在は、多文化共生への興味が高まり、制度面から在住外国人やその周り人びとの暮らしを支えるために行政書士としての活動を模索中。

### 3. 分科会の内容

国際協力の仕事につく、というのは一体どのようなことなのでしょう。まずは国際協力の分野にはどのようなアクターがいるのかを整理していきます。国際協力の仕事は社会の課題に対して多様なアプローチを考え解決を目指すものだと考えます。分科会では、ワークを通じて、自分のやりたいこと、強みなどを整理すると同時に、周囲の人にも目を向けていきます。社会課題の解決に向けて、社会課題を生み出している背後の要因も分析を加えながら、自分がどんな関わり方ができるのか一緒に考えていきましょう。

### 4. 事前に調べてほしいキーワード

- SDG s
- 国際協力
- マルチステークホルダー

### 5. 参考資料等

- 藤岡みなみ著『シャプラニール流 人生を変える働き方』2013 年、エスプレ
- シャプラニール『進化する国際協力 NPO』2006 年、明石書店

### 6. 事前予習用課題

ご自身が興味のある社会課題を 1-2 個挙げ、なぜそれが課題だと思うのか理由を 400 字程度にまとめたものを作成ください。

## 国際社会における都市経営

### ☆講師プロフィール

氏名：毛塚 幹人（けづけ みきと）

所属：都市経営アドバイザー

（那須塩原市・さくら市市政アドバイザー等）

略歴：

宇都宮市出身在住。2013年に財務省に入省し、国際局 G20・IMF 担当等に従事。2017年からはつくば市副市長を務める。2021年から都市経営アドバイザーとして政策立案・行政職員育成支援を開始。那須塩原市・さくら市市政アドバイザーを務める。Forbes JAPAN「世界を変える 30 歳未満の 30 人」選出。



### 1. 仕事の概要

都市経営アドバイザーとして、国内各地の地方自治体の経営・政策立案・職員育成等の支援事業を行っています。

### 2. キャリアパス

都市経営アドバイザーとして独立する以前は、東京大学法学部を卒業後、財務省に4年間勤務した後、つくば市副市長を4年間務めてきました。私のキャリアパスは一貫して行政を専門としていますが、フィールドは国から地方都市へ、アプローチも政府職員から地方自治体幹部、そして個人事業の都市経営アドバイザーへと変化しています。行政の変革は難しいことではありますが、地方都市は行政に変革を起こすフロンティアと捉えています。フィールドやアプローチを模索し、自分で仮説の検証を重ねながら、オリジナルのキャリアを切り拓いて成果を出してきました。

・学生時代、最初からキャリアパスを決めていた訳ではありませんでした。栃木県の宇都宮市で生まれ育ち、高校時代まで海外に行ったこともなかった私は、大学に入学してから国際社会に強い関心を持ちました。サークル活動では東京大学と北京大学の討論会や模擬国連に参加して国際交流を満喫し、授業も国際関係論など国際系の科目を多く受講し、フィリピンのスラムでホームステイしたこともありました。社会人になり、財務省でも最初の2年間担当したのはG7やG20、国際通貨基金（IMF）等の国際交渉でした。しかし、在学中や社会人として働き、自分が本当にやりたいことを模索する中、宇都宮市で生まれ育ち問題意識を強く持ってきた地方都市の現状の変革に注力することを選びました。フィールドは全く変わりましたが、実はこれまでの経験が活かれています。地方都市も国際交流や企業誘致、インバウンド獲得、多文化共生等に取り組んでおり国際社会に向き合っているためです。

・2021年に都市経営アドバイザーとして独立してからは、地元栃木県宇都宮市に12年ぶりにUター

ンして栃木県内の自治体の支援を活動の中心にしています。これまで東京、つくば市で活動しており故郷に貢献できていませんでしたが、自分の次の挑戦は故郷をフィールドに選びました。

### 3. 分科会の内容

地方都市の人口や財政の状況が厳しくなる中、国際的な視座で都市経営を考える重要性が増しています。人材獲得、インバウンド受け入れなど、選ばれる都市になるため取り組むべきことを議論したいと思いません。

### 4. 事前に調べてほしいキーワード

- 宇都宮市の姉妹都市交流
- つくば市の姉妹都市交流
- 地方自治体の国際交流や企業誘致、インバウンド獲得、多文化共生に関するニュース

### 5. 参考資料等

- 宇都宮市ホームページ「国際交流」  
<https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/kurashi/1013609/index.html>
- つくば市ホームページ「国際交流」  
<https://www.city.tsukuba.lg.jp/soshikikarasagasu/shichokoshitsukokusiteshisuishinka/gyomuanai/23/1/1001936.html>
- 自治体国際化協会（CLAIR）ホームページ  
<https://www.clair.or.jp/index.html>
- Forbes JAPAN 記事  
「26歳で「史上最年少の副市長」に アジャイル型で変革するつくば市経営」  
<https://forbesjapan.com/articles/detail/29276/page1>

### 6. 事前予習用リーディング課題

特にありません。

## 「多文化」が「共生」する社会とは？

### ☆講師プロフィール

氏名：申 惠媛（しん ひえうおん／SHIN Hyewon）

所属：宇都宮大学 国際学部 助教

略歴：

韓国ソウル市生まれ、2001 年来日。東京大学大学院総合文化研究科にて博士（学術）を取得。東京大学教養学部附属教養教育高度化機構・特任助教を経て、2022 年より現職。専門は社会学、特に観光地化など新しい局面を迎える地域社会における「多文化共生」の研究に取り組んでいる。



### 1. 仕事の概要・研究テーマ

宇都宮大学国際学部で教育や研究に取り組んでいます。専門は社会学（特に移民・エスニシティ研究、都市社会学）で、現在はエスニック・ビジネス集積地域におけるローカルな社会関係の再編を主な研究テーマとしています。これまでは主に東京都新宿区の「新大久保」と呼ばれるエリアをフィールドに調査・研究を進めてきました。韓流や K-POP のブームで知られる観光地化は、地域の人々にどのような影響を与えたのか。それは従来の「多文化共生」という枠組みから、あるいはそれを越えてどのように捉えることができるのか。こうした問いを立てて研究してきました。最近も引き続き、エスニック・ビジネス経営者の実践や、グローバル化・モバイル化の進むなかでの地域社会の変容などに関心を向けています。

### 2. キャリアパス

2001 年に韓国から来日し、日本国内でも転居を何度か繰り返し、地域を移動しながら小中高大の学生時代を過ごしてきました。こうした確たる「地元」をもたない自分自身の経験が、（出自を問わず）移動する人びとがつくる社会への関心につながったのかもしれない。

大学では教養学部に進学し、社会学を軸に幅広い学問の世界に触れることができました。卒業論文では漠然と日本に暮らす移民をテーマにしたい、と考えていたところ、折しも韓流・K-POP ブームを迎えて活性化していた「新大久保」という地域と改めて出会い、移民やエスニック・マイノリティだけでなく都市やメディアにも関心を広げていきました。その後、大学院の修士課程、博士課程と進みながら、研究の面白さと大変さの両方を噛み締めてきました。

### 3. 分科会の内容

近年、多様性の時代といわれ、さまざまな場面で多様性（ダイバーシティ）が奨励・推進されています。これから皆さんがどのようなキャリアを進むにせよ、何らかの形で多様性と向き合うことを余儀なくされるでしょう。しかし、考えてみると近年称揚される「多様性」は、魅力的ながらもどこかふわふわとして曖昧なように思えます。これほど注目される前は、昨今「多様性」として包摂すべきとされる人々ほど

のように捉えられていたのでしょうか？また、最近の「多様性」「ダイバーシティ」は楽しくポジティブな印象を与えますが、多様であるとは差異が存在することを意味します。「多様性」に光を当てるとき、その裏面にもとより横たわってきた、差異に基づく不平等や差別が覆い隠されてはいないのでしょうか？

この分科会では、こうした「多様性の時代」を考えるひとつの手がかりとして、いつしか耳慣れた言葉になってきた「多文化共生」という言葉について改めて考えてみたいと思います。「多文化共生」自体、非常に広い射程をもつ言葉ですが、ここではひとまず「多文化」の内容を「外国人」ないし「移民」に由来するものに限定して考えてみましょう。この言葉は、どのような場面でどのように使用され、どのような広がりを持ち、いかなる課題を抱えてきたのでしょうか？日本社会における「多文化共生」を他の人に説明しようとするとき、どのように伝えれば良いのでしょうか？その方法を一緒に探っていきます。

#### 4. キーワードリスト

多文化共生、多様性（ダイバーシティ）、オールドカマー／ニューカマー

#### 5. 参考資料等

- ナディ、2019、『ふるさとって呼んでもいいですか：6歳で「移民」になった私の物語』大月書店。
- 深沢潮、2015→2019、『緑と赤』小学館。

1冊目はエッセイ、2冊目は小説です。下記「予習用リーディング課題」の文献は、統計資料や政策等を通じて、または概念的に「多文化共生」を考えるための資料ですが、もう少し身近に感じるところから考えてみたい人におすすめです。これらを読むことで、下記課題文献の理解も深まるでしょう。どちらも可愛い表紙とは裏腹に考えさせられることが多く、気持ちの余裕があるときに読んでみてください。

#### 6. 事前予習用リーディング課題

- 永吉希久子、2020、『移民と日本社会：データで読み解く実態と将来像』中央公論新社。  
→このうち、「序章 移住という現象を見る」(pp. 3-22)
- 高谷幸、2021、「移民・多様性・民主主義：誰による、誰にとっての多文化共生か」岩渕功一編著『多様性との対話』青弓社、pp. 68-92.
- 小内透、2007、「外国人集住地域の現実と共生の視点」『調査と社会理論』・研究報告書、23、pp. 1-13。（専門用語も多く、難しく感じると思いますが、大まかな内容をつかんでみてください）

以上の文献をもとに、次の課題に取り組んでください。

- (1) 以上3つの文献を読む前に、「多文化共生」という言葉に対するイメージや、関連して自分が知っていることを箇条書きで5点以上まとめてみましょう。
- (2) 以上3つの文献を読んだ後に、(1)でのイメージが変化した場合は、どのように変化したのかを箇条書きで5点以上まとめてみましょう。イメージがあまり変わらなかった場合は、文献を通じて新しく知ったことを書き出してみてください。いずれの場合も、まとめる際には各文献を通じて重要だと思われるキーワードやキーセンテンスを探し、注目してみると良いでしょう。
- (3) 以上3つの文献の内容で、よくわからなかった箇所や、話し合ってみようと思った箇所があれば、メモしておいてください。

## 「違い」を越えた友だち

### ☆講師プロフィール

氏名：リーペレス・ファビオ（リーペレス ふぁびお）

所属：宇都宮大学 国際学部 助教

略歴：

2019年東北大学大学院文学研究科にて博士(文学)を取得。専門は文化人類学。特に移動する人や、ストレンジャー論や友人関係に取り組んでいます。幼少期から様々な国々を転々としながら育ち、将来はインディアナ・ジョーンズのように世界中の秘宝を奪ったり墓荒らししたりする学者になろうかと思っていました。2022年より現職。



### 1. 仕事の概要・研究テーマ

宇都宮大学国際学部で研究と教育をしています。専門は文化人類学です。研究関心は、「どこにいてもストレンジなストレンジャー」の移動の経験と自己形成と他者関係をめぐるライフストーリーの聞き取りを通して、どのように差異と向き合い、自己・他者認識を行い、移動先で出会った人々と関わっているのかを考えることです。ストレンジャーとは、生活している社会から民族や国籍や文化的背景や移動の遍歴などの違いを基準に他者化された人々のことです。日本社会では、帰国子女やハーフ移民とその子どもなどを総括して「外国にルーツを持つ人」と呼ばれています。最近、ストレンジャーが移動する先々で出会った人々とどのような関わりを築きまたは断つのか、そしてその人との関わりが日本社会で生きる上でどのような意味を持つのかを友人関係から考えています。

### 2. キャリアパス

私も両親の国籍が異なり、幼い頃から多くの国々を移動しながら育った「どこにいてもストレンジなストレンジャー」です。幼い頃から色々なところで育ち複数の言語を話し、外見的特徴からも何人なのか分からないと思われていました。人の移動が広域化し複雑化した現在では、私のような人々が増えています。そんな人々の生き方について知りたいと思い、東北大学大学院に進学し、学位を得て、今でも研究を続けています。2019年に学位取得後、東北大学大学院文学研究に就職し、2022年から現職についています。

大学では、文化人類学と民族誌学とスペイン語の授業を担当しています。研究調査は残念ながら、インディアナ・ジョーンズのように墓荒らしをしたり、秘宝を盗んだり、ナチスから追われたりすることはありません。主にライフストーリー収集を中心に、社会・文化の中に生きる人々について調査しています。

### 2. 分科会の内容

友人または友だちというつながりは、自律的な個人の間で交わされる関係、快樂や有用や善良を伴う関係だとも言われています。「友だち」と呼ばれる人とのつながりには、類似性と近接性によって親密

性が備わると言われています。つまり、友だちとは出生や出自のほかに趣味や価値観などが似て、近くで共に生活する人のことを指します。ですが、生の多様性が明らかになり、多くの「違い」を持つ人々と共にダイバシティあふれる社会でも、「友だち」と呼ばれる人は自分とよく似た人に限られるのでしょうか？

私が専門とする文化人類学では、友人関係は親族関係と同様に重要な社会関係ですが、あまり着目されてこなかったテーマです。数少ない文化人類学による友人関係に関する研究を振り返って、多文化社会の中で「友人」とはどのようなつながりなのかを一緒に考えていきます。

この分科会では、「友人」とはどのような存在なのか、友人と呼ばれる人々の間のつながりについて考えたいと思います。特に、自分とは異なるジェンダー、セクシュアリティ、国籍、両親の国籍、外見的特徴、民族、エスニシティ、ことば、移動の遍歴などを持つ人々との友人関係は、どのようにつながりが形成されるのか？互いの持つ「違い」が障壁になるのか？共通の趣味や価値観を見出せるのか？あるいは見出す必要はないのか？何をつなぐに互いを友人と捉えているのか？つながりを維持したいか？維持するためになにをするのか？つながりは断たれるのか？なぜ断たれるのか？そもそも友人とは何か？自分が生きる社会の中で、友人を持つことにどのような意味があるのか？一緒に探っていきましょう。

#### 4. キーワードリスト

人の移動、ストレンジャー、友人関係、ライフストーリー

#### 5. 参考資料等

参考資料は、以下の指定書に限らず、「異文化間交流」「多文化共生」「友人関係」をキーワードに様々な本や論文そして雑誌などを読み漁ってみてください。

- 高山陽子編 2022『フォビアがいっぱいー多文化共生社会を生きるために』春風社。  
本書は、自分の関心に合わせて、いくつかの章をピックアップして読んでください。

#### 6. 事前予習用リーディング課題

戸谷洋志 2023『友情を哲学するー七人の哲学者たちの友情観』光文社新書。

友人とは何か。この議題は古くから哲学で論じられてきました。本書を読むことで、友人の在り方がいかに論じられてきたのかを読み解き、自分の経験と繋ぎ合わせてみましょう。

川口幸大 2017『ようこそ文化人類学へー異文化をフィールドワークする君たちへ』昭和堂。

文化人類学の思考法を学ぶためまずは入門書から。本書のうち、第1章と第2章をてがかりに友人関係とは何かを考えましょう。

以上の文献をもとに、次の課題に取り組んでください。

- (1) 以上の文献を川口、戸谷、高山編の順に読み、相対的思考を持って、感想と疑問点をまとめてみましょう。
- (2) 文献を読んだ後に、「友人」とはどのようなつながりなのか、自分の経験も参照しながら、500～2000字程度でまとめてみましょう。

## 異文化理解コミュニケーションで必要なこととは？

### ☆講師プロフィール

氏名：浅水 伸介（あさみず しんすけ）

所属：カンボジア・ベトナム屋 代表

略歴：

大学院修了後、メーカーで開発に従事。平成 21 年、JICA 青年海外協力隊でカンボジアに赴任し、理数科教育プロジェクト及び農協振興プロジェクト、その後、ベトナムにて日越大学設立プロジェクト専門家。帰国後、主にクメール語の通訳・翻訳

を行いつつ学校等での国際協力関連講座を担当している。



### 3. 仕事の概要

現在、主にクメール（カンボジア）語の通訳・翻訳を行いつつ、学校などからの要請に応じて国際協力関連の講義などを受け持っている。日本にはクメール語の案内や資料がまだまだ乏しく、クメール語の通訳者が少ない。最近では、カンボジア人技能実習生の増加に伴い、通訳の要請が増加傾向にある。彼らは日々、言葉が分からないといった不安を感じながら生活している。私は通訳という立場で彼らをサポートしたいという思いがある。

また、国際協力の仕事に携わった経験を活かして、小学校から大学、一般を対象とした国際理解に関する講座を担当し、日本の日常生活ではあまり感じるできない世界の様々な価値観等を発見してもらう機会を提供している。

### 4. キャリアパス

私の場合、キャリアパスといっても様々な偶然が重なって現在の私がいるように思う。

元々、化学系の研究開発といった理系の仕事をしていましたが、現在は文系の仕事をしている。

もともと中学・高校時代からずっと化学が好きで、大学院修了後、化学系のメーカーに就職したことで、ブレずに自分の道を勝ち進んできたかのように見えた。しかし、研究・開発の仕事は、自分にとって向いていなかったと自覚、入社後直ぐに転職を考えるようになった。

実は、大学在学中に国際交流サークルに入って外国人留学生などと交流していくうちに、外国について興味を持ち始めていた。最初は旅行で外国を訪れる程度であったが、外国で仕事をしてみたいという気持ちの変化を生じた。就職した企業の海外拠点への勤務も視野に入れていたが、本当に自分がやりたいことは何だろうと考えた結果、国際協力の仕事に就きたいとの考えに至った。ところが、私の専門分野は前述の通り国際協力とは程遠い分野だったので、どのようなステップを踏んで国際協力の仕事につなげていくかを模索した結果、本キャリア教育セミナーの前身である国際キャリア合宿セミナーへ参加(2007年)、その後、JICA が行っている海外協力隊に参加して理数科教師としてカンボジアへ派遣され、そこか

ら国際協力の現場経験を積むことになった。

国際協力の仕事に携わってみて、国際〇〇学部とか語学系学部の出身というものが必ずしも専門分野として必要ではないことがわかった（逆に言うと、それらを大学で学んだからと言って、それだけで海外協力の分野の仕事ができるわけではない）。

海外協力隊を含めて、JICAでの国際協力の仕事に約11年間従事したが、日本にいても何か外国とつながる仕事をしてみたい、今までとは違う形での国際協力のお仕事をしてみたいという思いから、カンボジア・ベトナム屋を起業し、現在に至る。

#### 4. 分科会の内容

共感することについては親近感、そうでないものについては、違和感や時として憎悪を抱くことがある。それは同じ国や地域にいる同じ民族であっても起こりうることで、無意識の内に境界を作り、分断を生じ、時として排除する動きが多々ある。以下のキーワード、参考資料、予習用リーディング課題などを踏まえて、自身が感じたこと、気づいたこと、体験したこと等を挙げ、意見交換する機会を設ける。意見交換にあたり、どんな時に異文化を感じるか、その異文化を自分はどのように解釈したか。異文化を異物として否定的に捉えたとしたら（否定的とまで言わなくても、ちょっとした違和感があったとしたら）、それをどのようにして理解、共感といった肯定化につなげることができるだろうか、議論していく。

#### 5. キーワードリスト

- 異文化
- 多文化
- 外国人コミュニティー

#### 7. 参考資料等

身近に異文化を感じることができるものがないだろうか自分自身で探してみよう。例えば、外国料理のレストランで外国人が従事しているところはないだろうか。或いは、外国食材店の商品を見るだけでも異文化を感じることができるだろう。もし、機会があったら、来店しているお客さんや店員さんとお話してみるのも良いだろう。

#### 8. 事前予習用リーディング課題

- 超えてみようよ！境界線（かもがわ出版、村山哲也著）
- タイトルの中に「異文化コミュニケーション」を含む書籍 1冊  
上記の意見交換で役立つので、是非、読んでおきたい。

2023 年度国際キャリア教育セミナー  
「国際キャリア教育」事前学習資料集

発行日：2023 年 7 月 1 日

発行：宇都宮大学 国際学部

〒321-8505 宇都宮市峰町 350

TEL: 028(649)5172 FAX: 028(649)5171

E-mail: [kokuca@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:kokuca@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp)

|    |  |    |  |
|----|--|----|--|
| 学部 |  | 学科 |  |
| 学年 |  | 氏名 |  |